

2025

9.17

(水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_rkXp-FRYQPq32FGkLgHn9w

【技術支援】九州大学 Q-AOS

未来のための考古学



Key Words

社会考古学

物質文化

社会構造

弥生時代

溝口 孝司 教授

比較社会文化研究院 環境変動部門



1963 年生まれ。ケンブリッジ大学博士課程修了(Ph.D.)。専攻は理論考古学・社会考古学。事例研究のテーマは葬送行為、物質文化と社会構造、考古学と現代社会。カバーする地域・時代は主に日本弥生時代、ヨーロッパ新石器・青銅器時代。現代社会の中で考古学が果たす役割を追求する「社会考古学」を提唱・実践している。現在世界考古学会議(WAC)会長、日本イコモス国内委員会副委員長、九州考古学会会長を務める。2025年、日本からは9人目、考古学者としては初の英国学士院国際会員に選出された。著書に、『The Archaeology of Japan: the Earliest Rice Farming Villages to the Rise of the State』(Cambridge University Press 2023)、『社会考古学講義: コミュニケーションを分析最小基本単位とする考古学の再編』(同成社、2022)などがある。

考古学は人と人、人と物、人と環境との関わりとそれらの変化について、遺されたさまざまな物的痕跡から研究する学問です。人は物を作り、物に助けられながら社会生活を営んできました。考古学的資料には、様々な社会的・自然的条件のもとで、人が生きるためにおこなった思考や行動の痕跡が刻まれています。どのような社会や環境のもとで、人がどのように生きたかを工夫を凝らして明らかにすれば、今を生きる私たちの思考や行動に活かすことのできる多くのことを引き出すことが可能です。講演では、考古学を通じて過去を読み解き、現在と未来に活かす術(すべ)について、具体的な事例を用いつつ考えてみたいと思います。